

りんご栽培情報第5号

令和5年7月18日
氷見市りんご組合
J A 氷見市
富山県高岡農林振興センター

■ 1 生育概況と栽培管理について

果実の肥大は、前年、平年並みです。着果数が多い園地では、適正な着果数となるよう早急に補正摘果を進めてください。

■ 2 今後の病害虫の対策と防除について

梅雨明け後に高温少雨が続き、ハダニ類の急増が懸念されます。ダニの発生密度や種類に留意し、発生が見られる場合は、殺ダニ剤を下表の散布時期より早めに、単剤で散布してください。

回数	時期	対象病害虫	散布薬剤名	希釈倍数	10a当 散布量	100L当 必要薬剤(g, cc)	防除実施日 (自己記入)
12	7月31日～	輪紋病、斑点落葉病、褐斑病	オキシラン水和剤	500倍	500L	200g	月 日
	8月2日頃 (防除前に草刈を実施)	ハダニ類 (展着剤)	スターマイトフロアブル マイリノー	2,000倍 20,000倍		50cc 5cc	
13	8月10～ 12日頃	褐斑病、すす点病、すす斑病 シクイムシ類、カメムシ類 (展着剤)	トップジンM水和剤	1,500倍	500L	66g	月 日
			モスピラン顆粒水溶剤 マイリノー	4,000倍 20,000倍		25g 5cc	
14	8月20～ 22日頃	褐斑病、炭そ病、すす点病、すす斑病 (展着剤)	ナリアWDG マイリノー	2,000倍 20,000倍	500L	50g 5cc	月 日

※他の作物へ飛散（ドリフト）しないように、注意して散布してください。

※褐斑病が目立つ場合や台風等による長時間の強風や豪雨があった場合は、トップジンM水和剤（1,500倍、6回以内、前日まで）を散布してください。

※スターマイトフロアブル散布前には、草刈りを行ってください。

※スターマイトフロアブル散布後にハダニ類が多発した場合は、コロマイト水和剤（2,000倍、1回、前日まで）を散布してください。

※炭疽病り病果は、見つけ次第摘み取り、園外へ持ち出し適切に処分してください。

※園地内へのカメムシの飛来が確認される場合は、速やかに効果の高い殺虫剤（ダントツ水溶剤：4,000倍 3回以内、前日まで）を散布してください。

■ 3 着果数の見直しと補正摘果について

果実が肥大し、着果数が多い園地・樹では、着果過多が目立つようになってきました。果実同士の間隔が狭い場合や、ぶつかっている場合、降霜・降雹による傷果、さび果等を中心に随時、補正摘果を行ってください。

葉色が淡く葉数が少ない樹は、樹勢が弱っているため、果実の肥大が悪く、果形は扁平になります。このような弱樹勢樹は、着果数を少なめにして、樹勢の強化に努めてください。

■ 4 落果防止剤について

今後も高温が続く、収穫前落果が発生しやすい気象条件が見込まれます。収穫前落果の多い品種には、落果防止剤を散布しましょう。

散布薬剤名	使用目的	散布時期	希釈倍数	10a当 散布量	使用回数
ストップール液剤 ※1	収穫前落果防止	収穫開始予定の 25日～7日前	1,000倍～ 1,500倍	300～ 600L	2回以内
ヒオモン水溶剤 ※2	収穫前落果防止	収穫開始予定の 21日～4日前	1,000倍～ 2,000倍	300～ 600L	2回以内

※1 ストップール液剤を2回散布する場合は、10日間程度間隔を空けてください。

※1 ストップール液剤は、高濃度処理で果肉が軟化する点に留意し、展着剤は加用しないでください。

※1 ストップール液剤は、「つがる、紅玉、千秋、王林など」が対象品種です。

※2 ヒオモン水溶剤は、「つがる、王林、紅玉、陽光など」が対象品種です。

■ 5 かん水について

梅雨明け後の高温少雨によって、果実肥大への影響と日焼け果の発生が懸念されます。まとまった降雨が無い場合は、ほ場が乾燥しすぎないように5～7日間隔で朝夕の涼しい時間帯にかん水を行ってください。特に、苗木や若木については、十分にかん水を行ってください。

■ 6 支柱入れについて

果実の肥大に伴い、主枝等に大きな負担がかかります。また、今後、強風による枝の折損が懸念されます。支柱入れを行い、主枝、亜主枝等の枝折れを防ぐとともに、側枝間に空間をつくり、薬剤と光の通りを良くしましょう。

※別添の「風雪害対策（支柱入れ）について」を参考に行いましょう。

■ 7 台風対策について

今後、台風の接近による強風被害の発生が懸念されます。被害を軽減するため、以下の点に留意して対策を実施してください。

(1) 事前点検

支柱・縄の点検：大枝、わい性台木樹、若木等の支柱や結束縄の強度の点検・補強

防風施設の点検：支柱やネットなどの点検・補強

排水溝の点検：明きょ、暗きょ排水溝の点検・手直し

(2) 事後対策

傷口の保護：枝折れ等の傷口は、きれいに切り直し、トップジンMペースト（3回以内）などを塗布する。

倒伏樹の回復：倒伏した樹は、根を傷めないように引き起こし、支柱入れと根回りのかん水を行う。根の損傷は、きれいに切り直し、トップジンMペーストなどを塗布する。

褐斑病等の感染拡大防止：台風等による長時間の強風や豪雨があった場合、速やか（1～2日後）にトップジンM水和剤（1,500倍、前日まで、6回以内）を散布する。

風雪害対策（支柱入れ）について

- ・令和3年1月の大雪で、県内の果樹園地では主枝・亜主枝の折損や樹の倒伏などの雪害が多く発生しました（写真1～3）。また、近年は気候変動に伴い、台風等の強風による樹体被害も増加しており、これらに対する備えが必須となっています。
- ・支柱入れは、折損を防ぐとともに、枝の重なりを解消し、薬剤と光の到達性を改善するために必ず行いましょう。風雪害に強い支柱の入れ方を確認し、自園地の対策を見直しましょう。



写真1 雪害事例①
要因：支柱がない



写真2 雪害事例②
要因：支柱の強度不足



写真3 雪害事例③
要因：支柱の位置が基部に近すぎる

【支柱の入れ方】

事故防止のため、作業は必ず2人以上で実施！！

(1) 支柱の種類

- ・骨格枝（主枝・亜主枝）の支柱は、スギやヒノキの丸太（最も細い部分でも直径5 cm以上あるもの）が適する（写真4）。
- ・一般的に用いられている黒イボ竹は、成木の骨格枝を支えるには強度が足りないため、補助的な支柱として用いるか、側枝等の枝つき用とする。また、竹は縦方向に裂けやすいため、なるべくスギ、ヒノキ製の丸太を用いる。

(2) 支柱本数

- ・支柱は、原則として各骨格枝に1本ずつとする。
（例：2本主枝＋4本亜主枝の樹の場合 ⇒ 支柱は6本必要）
- ・骨格枝が長く、支柱1本では足りない場合は、先端付近に補助支柱（太めの竹や黒イボ竹も可）を入れる。ただし、支柱本数が多いと草刈り等の作業性が悪くなるので、補助支柱は必要最低限とする。



写真4 スギ丸太支柱

(3) 支柱の位置

- ・支柱を入れる位置は、骨格枝の大きさ、形状によって異なるが、骨格枝の先端から1/3～1/4程度の位置を目安とする（写真5）。
- ・支柱の位置を決める際には、防除機(SS)等の走路を確保する（写真6）。なお、防除効果を高めるため、SSの走路は樹冠内部を通るようにする。



写真5 支柱位置の目安



写真6 SS 走路の確保 (矢印: 支柱位置)

(4) 強風に強い支柱の入れ方

- ・支柱は骨格枝下面の平らな部分にしっかりと当て、骨格枝の下面と支柱の角度が90度となるよう調整する (写真7)。
- ・骨格枝が強風にあおられても支柱が外れないよう、支柱と骨格枝をロープやハウスバンド等でしっかりと結束する (写真7)。また、支柱先端にはロープを掛けられるフック等 (耐候性、耐荷重性のあるもの) を取り付けると良い (写真8)。
- ・支柱下側のズレを防止するため、支柱を立てる位置の地面を5～10 cm程度掘り、支柱下部を埋設する (写真9)。
- ・台風等の強風時に、支柱が骨格枝と一緒に浮き上がらないよう、杭等で補強する (写真10)。

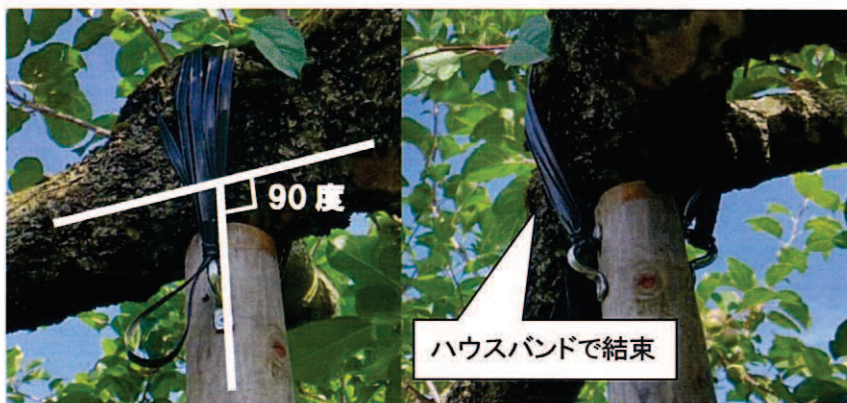


写真7 支柱の角度および骨格枝との結束



写真8 フックの取付け例



写真9 支柱下部のズレ防止



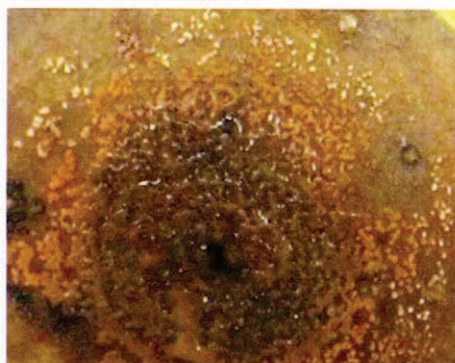
写真10 支柱の浮き上がり防止

作物名：りんご

病害虫名：炭疽病（病原：*Glomerella cingulata*, *Colletotrichum acutatum*）



果実の病斑



病斑上の分生子塊

1 被害の特徴と診断のポイント

- ・果実に発生し、病斑には大型病斑と小型病斑がある。葉では潜在感染するが発病しない。
- ・大型病斑は8月中旬以降にみられ、果面に円形で褐色のくぼんだ病斑を形成する。病斑は輪紋を描いて拡大し、軟化腐敗する。病斑表面には、輪紋に沿って黒色の小粒点（分生子層）を形成し、多湿条件ではこの上に鮭肉色の分生子塊を形成する。
- ・小型病斑は2mm前後の茶褐色～黒褐色、小斑点で、果面から少し隆起し、多い場合は数十～数百個程度形成される。小型病斑は、のちに大型病斑に進展するものと、小型病斑のまま残るものがある。

2 伝染源及び伝染方法

- ・ニセアカシアが多い雑木林に隣接するりんご園で発生が多く、ニセアカシアの葉や葉柄の病斑上に形成された分生子が第一次伝染源となる。また、他の寄主植物としてクルミ、イタチハギなども重要な伝染源とされている。
- ・りんご樹上では、果台や剪定痕などで分生子が越冬し、第一次伝染源となる。
- ・感染は6月上旬頃から始まり、二次伝染も含め9月頃まで発生が続く。

3 発病・伝染好適条件

- ・本菌は糸状菌の一種で、子のう菌類に属する。多犯性で、りんごのほか、なし、ぶどう、いちじく、いちご等も侵す。
- ・感染には降雨が重要な要素で、病斑上に形成された分生子が雨滴により二次伝染を繰り返す。
- ・果実が感染しやすい時期は6月頃～8月頃であり、高温多雨条件で発生が多くなる。

4 防除方法

- ・園地近隣の伝染源植物ニセアカシア、イタチハギ等は、可能な限り伐採する。
- ・発病果は第二次伝染源となるので、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- ・6月～8月上旬は梅雨期にあたるので散布間隔が開きすぎないように防除を徹底し、降雨が多い場合は薬剤の散布間隔を短くするなどの対応を行う。

5 出典

- (1) 参考文献：日本植物病害大辞典（全国農村教育協会）
ひと目でわかる果樹の病害虫第三巻（改訂版）（日本植物防疫協会）
農業総覧原色病害虫診断防除編第5巻（農文協）
- (2) 写真：宮城県病害虫防除所撮影

令和5年7月

氷見市りんご組合員 各位

氷見市りんご組合事務局

氷見りんご組合共通出荷袋（新規格）の注文受付について

このたび、表記のりんご袋について、
下記の通り注文受付を行います。
是非ともご利用ください。

○規格：タテ 27cm（全長 40cm）×

ヨコ 17cm

※りんごL規格 4~5玉程度（1.0kg
程度）入ります

※旧規格よりスリムにしましたので、りんご
を入れたときにタブ付かず、袋が立った状態
で陳列できます。

○販売価格：100枚入り 税込 1,200円

○申込方法：下記注文書を最寄り JA 支所に
提出下さい。申込期日：7月31日（月）

袋の全長
（持ち手
含め）
40cm

袋の深
さ 27c
m

袋の幅 17cm



袋には、「ひみりんご」のロゴとキャラクター、「富
山県氷見市産」「氷見市りんご組合に加盟する生産
者の商品です」の表記があります。

今年度、1ロット（12,600枚）追加注文し、現在の在庫は、
100枚入り×164袋です。多数の注文をお願いします

氷見市りんご組合 R5年度 ひみりんご袋（新規格） 注文書

注文日：令和5年 月 日

所属支所： 支所 注文者氏名：

注文数：100枚入り × 袋 ◎お届け時期：8月中旬頃～